

1 - 1

職員のスキルアップを目指して!




ふじトピア

<サービス委員会>

1 - 2

●研修のきっかけ

安全対策委員会の活動・・・前年度一年間の事故総数を集計

特養 (70床)	短期入所 (20床)	きみ	・・・	498件
GH 1ユニット	(9床)		・・・	88件
DS 一般 (30名)	認知症 対応型 (12名)	きみ	・・・	58件
合計				644件

事故予防の視点・・・傷害に直る事象を引き起こす原因及び可能性を見つけること
(ハザード⇒損傷・損害をもたらす潜在的な源)

- ①利用者自身がハザード・・・ アセスメントの明確化
- ②施設・備品・環境がハザード・・・ 環境整備
- ③職員自身がハザード・・・ 介護技術等

当施設

・・・ 職員自身がハザード (一位)

1 - 3

<研修目的>

★ふじトピアの理念
「安全」「安定」「安心」な安らぎの場の提供

- ・早期にリスク情報を把握
- ・人間はエラーを犯すことを前提・・・予防の視点で原因・状況の分析
- ・職員同士円滑なコミュニケーション
- ・職員のヒヤリ・ハットする能力 以上の意識改革とスキルアップを目指す

<サービスの質改善> 教育は困難でも訓練という「研修」が必修

①作業環境注視能力	気付く能力
②視界を広くとる能力	ポジショニング能力
③対人介護技術	怪我をさせない能力

↓

技術のモニタリング研修の実施

2 - 1


<介護技術 職員研修> ヒヤリ・ハットする能力を身に付ける


●研修会の内容

- ・事例1～事例4 介護者の実技 (一例 5分間)
- 事例1 (右片マヒ) 車イス→ベッド→仰臥位→側臥位
- 事例2 (右片マヒ) ベッド→車イス→上着を着せる
- 事例3 (右片マヒ) 汗をかいたのでシャツとズボンを着替えさせる
- 事例4 (右片マヒ) 階段の昇降

・観ている例はアンケートに記入 (一例 5分間)

・介助方法 (気付き) の意見交換



2 - 2


●研修項目

- ・技術のモニタリング 年に3回実施
(チェックリストを作成し、気付きの発見、介護技術の確認)
- ・事故報告書の書き方 年に2回実施
(憶測を避け、客観的に必要な情報を書く)
- ・連絡・報告の技術 年に2回実施
(マニュアルに基づきシュミレーション)
- ・対人援助技術 必要時(個別・少人数制)
(熟達されていない職員・悩んでいる職員)

2 - 3

●他責に転化する職員の本音?

- ・研修は参加したい人だけが出れば良いのに・・・
- ・仕事のあとの研修は辛いなあ～
- ・研修に出なくても、言うことは判ります
- ・早く帰りたい、家でやる事がたくさんあるのに・・・
- ・研修会で当てられたら、イヤだなあ～
- ・ろくな人がいないんだから、しょうがないじゃん





●参加者の感想 まとめ ①～⑥昇順 4-1


①危機意識をもっている職員は気遣いの視点が違うと感じた。

②利用者役をやってみて動きが早くて怖かった。高齢者もこんな思いをしているのかと思った。

③みんなの前だったので、緊張して健側、患側が判らなくなってしまう、残存機能を活かすどころか、職員による全介助をしていた。



④自分ではもっと出来て思っていたが、いざやると混乱して周りが見えず、利用者のADLを軽視してしまった。

⑤知らないことが恥ずかしくなり、今回の研修会は自分の為になった。




<研修会の評価> 4-2

- ・常に危険があるという認識を持つことが重要と理解する。
- ・知らない方が恥ずかしいことだと確信する。
- ・事故を減少させるには個々の職員の意識改善が必要。
- ・個々の利用者のADLの把握（速度）にも配慮が大切と知る。
- ・慣れや職員独自の介助に利用者を巻き込まないよう注意する。

●気づきと成果 (こっそりインタビュー) 4-3

研修前	研修後
・責められていると思っている	⇒ 責めているのではなく情報の共有のことだと知った
・文章を書くのが苦手	⇒ 箇条書きから訓練したらスムーズに書けた
・自分に自信がない	⇒ 判らないままにしないこと(素直に教えてもらおう)
⇕	⇒ 出来ているつもりだっただけで恥ずかしい
・自分では出来ていると思っている	⇒ 感心がなかった事に気付いた




●他の委員会へ刺激 5-1

★ふじトピア サービス委員会

- ・環境委員会
- ・安全対策委員会
- ・業務標準化委員会
- ・苦情解決委員会

★その他委員会

- ・感染委員会
- ・広報委員会
- ・研修委員会
- ・防災委員会
- ・福利厚生委員会
- ・評価委員会
- ・秋祭り委員会



●業務標準化委員会 5-2

「気軽に活用できるマニュアル」


- ・現場にあって便利な手引き

受診に必要なものは？
入所に準備しておくものは？
行事の立案したら？

- ・今さら人に聞けない

(えっ？何のこと?) 介護福祉用語
(壊れているようだけど...) 修理依頼書の記入
(これ、洗濯して良いの?) 衣服に関する理解

2010年4月 「職員の手引き」完成



●研修委員会 5-3


全体研修(講演会)・施設内研修
+
個別研修

委員は所属する部署で自ら主催し実施する

- ・個別研修計画書
- ・実施報告書の提出

介護福祉士試験対策

資格取得特別チームを作り半年間勉強会を開催する



●職員のスキルアップを目指して!

6-1

これからの取り組み

「介護の専門性」 = 排泄ケア

長期利用者70名 ⇨ 25名が昼夜おむつ使用

残り45名	トイレ	見守り	パットなし	6名
		介助	パットあり	39名

ひとりでも多く、排泄ケアの実践へ



おむつに頼らない
排泄自立支援介護技術を学ぶ

6-2

その為には・・・

- ・職員の意識改革
(利用者の立場からの発想)
- ・介護の専門化(チームケア)
(アセスメントを見直し、水分摂取量・低栄養の改善等)
- ・サービスの質の向上
(職員一人ひとりが、現状維持からの脱出)

